

# 富山県農林水産試験研究評価実施要領

(平成16年8月6日策定)

(平成17年9月13日変更)

(平成20年6月2日変更)

(平成21年6月11日変更)

(平成21年9月18日変更)

(平成26年4月1日変更)

## 第1 本実施要領の位置付け

本実施要領は、「富山県試験研究機関研究評価の実施に係る指針（平成16年4月1日施行）」の趣旨に則り、本県農林水産総合技術センターにおける試験研究に対する具体的な評価方法等を定めるものである。

## 第2 試験研究評価の目的

客観的かつ透明な試験研究評価を行うことで、試験研究の効果的かつ効率的な実施を図るとともに新技術の開発とその速やかな普及により、本県農林水産業の振興等に資する。また、評価結果を公表することにより、試験研究の役割や成果等について、広く県民の理解を深めることを目的とする。

## 第3 評価の実施機関

富山県農林水産技術会議設置要綱（平成20年6月2日改正）に定める部会及び県職員以外の有識者等から構成する外部評価委員会（以下「外部委員会」という）が試験研究評価を実施する。

## 第4 評価の区分

評価の区分は以下のとおりとする。

- (1) 事前評価：新規に実施しようとする課題について、必要性や貢献可能性、研究内容が適切であるか等について予算要求前に評価を行う。
- (2) 中間評価：原則として5年以上の期間にわたる課題について、原則として開始後3年目毎に試験研究の進捗状況、社会情勢の変化等を踏まえ、研究内容が適切であるか等について評価を行う。

- (3) 事後評価：試験研究が終了した課題について、原則として終了年度にその研究成果について評価を行う。
- (4) 追跡評価：試験研究が終了した課題について、終了後数年後にその研究成果の普及状況や貢献度について評価を行う。

## 第5 評価の実施体制及び対象課題

効果的かつ効率的な評価を行う観点から、部会での評価、外部委員会での評価を行うものとする。

### 1 部会評価

次の課題について部会で評価を行う。

なお、評価対象課題は、当該課題を担当する試験研究機関の長が決定するものとする。

- (1) 事前評価：農林水産施策に関わる重要な課題
- (2) 中間評価：農林水産施策に関わる重要な課題であり、試験研究の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえ評価が必要な課題
- (3) 事後評価：農林水産施策に関わる重要な課題
- (4) 追跡評価：研究成果の普及状況や貢献度について評価が必要な課題

### 2 外部委員会評価

上記1の各評価ごとに、部会評価を行った課題の内から特に重要な課題について、部会毎に設置する外部委員会で評価を行う。

なお、特に重要な課題については、

- ①本県の農林水産業を振興するうえでの懸案課題や緊急性の高い課題
- ②人的、資金的に研究資源を相当量投入する必要がある又は投入した課題
- ③その他、部会長が特に必要と認めた課題

とし、農林水産総合技術センター所長が決定するものとする。

## 第6 評価の項目、視点及び評価基準等

評価の項目、視点及び評価基準等は、原則として別表1、2のとおりとする。

## 第7 評価等の手順

### 1 部会評価

試験研究実施機関は、評価の対象となる課題について、別紙様式1～4（評価欄を除く）及び関係資料を作成し、部会に対して説明を行う。部会は、これに基づいて評価を行うものとする。

### 2 外部委員会評価

部会での評価結果を踏まえ、試験研究実施機関は評価の対象となる課題について、研究計画等の所要の見直しを行った上、下記により外部委員会による評価を行うものとする。

#### ①委員の選任

委員は、次の条件を満たす者のうちから部会長の所属する試験研究機関の長の推薦を受け、技術会議会長が委嘱するものとする。

- ア 十分な知識を有し、かつ公正な立場から意見を述べることができる者であること
- イ 評価結果の内容の公表についてあらかじめ同意している者であること
- ウ 試験研究実施機関と利害関係にないこと

#### ②外部委員会の招集

外部委員会は、部会長の所属する試験研究機関の長が召集する。

#### ③委員長の選出

外部委員会に委員長を置くこととし、委員長は、委員の中から互選する。

#### ④評価の実施方法

委員は、事務局から事前に提出された資料及び試験研究実施機関からの説明により別紙様式5～8の評価票を作成する。委員長は、各委員の評価をとりまとめ、その結果を部会長に報告する。

#### ⑤その他

外部委員会の事務局は、当該部会長の所属する試験研究機関に置くものとする。

## 第8 対応措置の試験研究計画等への反映

試験研究実施機関は、技術会議で協議された対応措置方向を踏まえ、試験研究計画の見直しや予算編成等に適切に反映させるものとする。

## 第9 評価結果等の公表

研究機関の活動や試験研究成果について広く県民の理解を深めるため、農林水産技術会議は、ホームページなどを利用し、県民にわかりやすい形で評価結果等の公表を行うものとする。

### 1 評価結果を公表する試験研究課題

外部委員会評価を行った課題とする。ただし、個人情報または企業情報の保護、知的所有権の取得等、機密の保持が必要な場合は、公表しないものとする。

### 2 評価結果を公表する手段及び内容

- (1) 農林水産技術会議の事務局である農林水産企画課のホームページなどを利用し、必要に応じ関係資料とともに県民にわかりやすい形で公表する。
- (2) 別紙様式9に基づき、試験研究課題名及びその概要、評価結果などを公表するものとし、備考欄には、当該課題の結果等を適宜併せて掲載する。

## 第10 その他

この実施要領に定めるもののほか、試験研究評価に関し必要となる事項については、農林水産部長が別に定めるものとする。

別表 1

区分	評価時期	項目	視点	基準
事前評価	原則として試験研究開始の前年度(予算要求前)	(1) 必要性・貢献可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場、行政等からのニーズ</li> <li>・県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性</li> <li>・緊急性</li> <li>・県の施策上の位置づけ</li> </ul>	別表 2
		(2) 研究内容の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発する技術の内容</li> <li>・目標達成の可能性</li> <li>・研究内容の創造性・新規性・先進性</li> </ul>	〃
		(3) 成果の活用方法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切性</li> </ul>	〃
中間評価	原則として試験研究開始後 3 年目毎	(1) 必要性・貢献可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場、行政等からのニーズ</li> <li>・県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性</li> <li>・研究の継続の必要性</li> </ul>	〃
		(2) 進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり進んでいるか（問題がある場合、原因の把握・対応策が適切に講じられているか）</li> </ul>	〃
		(3) 今後の計画の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績や情勢の変化等を踏まえた今後の計画の適切性</li> <li>・成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切性</li> </ul>	〃
事後評価	原則として試験研究終了年度	(1) 貢献可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性</li> </ul>	〃
		(2) 計画の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初計画と比較した目標の達成度</li> <li>・成果が現場へ普及、あるいは実用化するものになったか</li> </ul>	〃
		(3) 成果の活用方法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切性</li> </ul>	〃
追跡評価	試験研究終了後数年後	貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の普及状況</li> </ul>	〃

## 別表 2

## 評価項目別評価基準

## (1) 事前評価

評価項目	評価	比重	備考
必要性・貢献可能性	a (=1) : 高い b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや低い d (=0.3) : 低い e (=0.0) : 非常に低い	5 0	
研究内容の妥当性	a (=1) : 優れている b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや劣る d (=0.3) : 劣る e (=0.0) : 非常に劣る	4 0	
成果の活用方法の妥当性	a (=1) : 適切 b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや不適切 d (=0.3) : かなり不適切 e (=0.0) : 不適切	1 0	

## (2) 中間評価

評価項目	評価	比重	備考
必要性・貢献可能性	a (=1) : 高い b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや低い d (=0.3) : 低い e (=0.0) : 非常に低い	2 0	
進捗状況	a (=1) : 予定を上回っている b (=0.7) : 順調 c (=0.5) : やや予定を下回っている d (=0.3) : 予定を下回っている e (=0.0) : 予定を著しく下回っている	5 0	
今後の計画の妥当性	a (=1) : 適切 b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや不適切 d (=0.3) : かなり不適切 e (=0.0) : 不適切	3 0	

## (3) 事後評価

評価項目	評価	比重	備考
貢献可能性	a (=1) : 高い b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや低い d (=0.3) : 低い e (=0.0) : 非常に低い	1 0	
計画の達成度	a (=1) : 予定を上回った b (=0.7) : 予定どおり c (=0.5) : やや予定を下回った d (=0.3) : 予定を下回った e (=0.0) : 予定を著しく下回った	5 0	
成果の活用方法の妥当性	a (=1) : 適切 b (=0.7) : 妥当 c (=0.5) : やや不適切 d (=0.3) : かなり不適切 e (=0.0) : 不適切	4 0	

## (4) 追跡評価

評価項目	評価	備考
貢献度	a : 高い b : 妥当 c : やや低い d : 低い e : 非常に低い	

事前評価票

部会名 \_\_\_\_\_ 試験研究機関名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_ )

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 試験研究評価のコメント

項 目	コ メ ン ト
必要性 ・ 貢献可能性	①現場、行政等からのニーズ(必要性)  ②県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性  ③緊急性  ④農林水産試験研究推進プランの位置づけ
研究内容 の妥当性	①開発する技術の内容（人員、設備、予算等に対する計画の妥当性）  ②目標達成の可能性  ③研究内容の創造性・新規性・先進性
成果の活 用方法の 妥当性	①成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切性

4 評価結果

(1) 部会評価

	項目別評価			総合評価
	必要性・貢献可能性 (50)	研究内容の妥当性 (40)	成果の活用方法の妥当性 (10)	
評価	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	A・B・C・D・E
採点				
コメント				
対応措置方向				

(2) 外部委員会評価

	項目別評価			総合評価
	必要性・貢献可能性 (50)	研究内容の妥当性 (40)	成果の活用方法の妥当性 (10)	
評価	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	A・B・C・D・E
採点				
コメント				
対応措置方向				



(3) 技術会議

対応措置方向	

<評価基準>

(1) 部会評価、外部委員会評価

項目別評価：係数(a=1、b=0.7、c=0.5、d=0.3、e=0)に項目の比重をかけて採点

総合評価：各項目別の合計点数

A(100～85点)：優れている、B(84～70点)：妥当、C(69～50点)：部分的見直しが必要、  
D(49～30点)：全面的見直しが必要、E(29～0点)：実施せず

部会名 \_\_\_\_\_ 試験研究機関名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_ )

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 試験研究評価のコメント

項目	コメント
必要性 ・ 貢献可能性	①現場、行政等からのニーズ(必要性)  ②県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性  ③研究の継続の必要性
進捗状況	①計画どおり進んでいるか(成果が出ているか) (問題がある場合、原因の把握・対応策が適切に講じられているか)
今後の計画の妥当性	①実績や情勢の変化等を踏まえた今後の計画の適切性  ②成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切性 (成果の活用方法を念頭においているか)

4 評価結果

(1) 部会評価

	項目別評価			総合評価
	必要性・貢献可能性 (20)	進捗状況 (50)	今後の計画の妥当性 (30)	
評価	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	A・B・C・D・E
採点				
コメント				
対応措置方向				

(2) 外部委員会評価

	項目別評価			総合評価
	必要性・貢献可能性 (20)	進捗状況 (50)	今後の計画の妥当性 (30)	
評価	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	A・B・C・D・E
採点				
コメント				
対応措置方向				

(3) 技術会議

対応措置方向	

<評価基準>

(1) 部会評価、外部委員会評価

項目別評価：係数(a=1、b=0.7、c=0.5、d=0.3、e=0)に項目の比重をかけて採点

総合評価：各項目別の合計点数

A(100~85点)：優れている、B(84~70点)：妥当、C(69~50点)：部分的見直しが必要、  
D(49~30点)：全面的見直しが必要、E(29~0点)：中止

様式 3

事後評価票

部会名 \_\_\_\_\_ 試験研究機関名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_ )

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 試験研究評価のコメント

評価項目	コ メ ン ト
貢献可能性	①県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性
計画の達成度	①当初計画と比較した目標の達成度 ②成果が現場へ普及、あるいは実用化するものになったか
成果の活用方法の妥当性	①成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切性

4 評価結果

(1) 部会評価

	項目別評価			総合評価
	貢献可能性 (10)	計画の達成度 (50)	成果の活用方法の妥当性 (40)	
評価	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	A・B・C・D・E
採点				
コメント				
対応措置方向				

(2) 外部委員会評価

	項目別評価			総合評価
	貢献可能性 (10)	計画の達成度 (50)	成果の活用方法の妥当性 (40)	
評価	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	a・b・c・d・e	A・B・C・D・E
採点				
コメント				
対応措置方向				

(3) 技術会議

対応措置方向	

<評価基準>

(1) 部会評価、外部委員会評価

項目別評価：係数(a=1、b=0.7、c=0.5、d=0.3、e=0)に項目の比重をかけて採点

総合評価：各項目別の合計点数

A(100～85点)：優れた成果が得られた、B(84～70点)：良好な成果が得られた、

C(69～50点)：予定された成果にはやや至らなかった、

D(49～30点)：それほどの成果が得られなかった、

E(29～0点)：成果が得られなかった

様式 4

追跡評価票

部会名 \_\_\_\_\_ 試験研究機関名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_)

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 成果

(1) 研究の目的

(2) 研究成果の概要

(3) 成果の普及状況 (貢献度) (\*できるだけ数値で示してください。)

(4) 問題点・課題

4 評価結果

(1) 部会評価

評価項目	評 価	コ メ ン ト
貢献度	a 高い b 妥当 c やや低い d 低い e 非常に低い	

(2) 外部委員会評価

評価項目	評 価	コ メ ン ト
貢献度	a 高い b 妥当 c やや低い d 低い e 非常に低い	

(3) 技術会議

対応措置方向



委員名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_)

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 評価結果 (採点の計算方法：係数(a=1、b=0.7、c=0.5、d=0.3、e=0)に項目の比重をかけて採点する。)

評価項目	評価する視点	評価	採点	コメント
必要性 ・ 貢献可能性 (50)	①現場、行政等からのニーズ(必要性) ②県内の農林水産業・食品産業への 貢献可能性 ③緊急性	a b c d e		
研究内容 の妥当性 (40)	①開発する技術の内容(人員、設備、 予算等に対する計画の妥当性) ②目標達成の可能性 ③研究内容の創造性・新規性・先進性	a b c d e		
成果の活 用方法の 妥当性 (10)	①成果の活用方法や実用化に向けた 取組の適切性	a b c d e		
採点結果 (合計)				
総合評価				
総合評価の基準 (目安)	A (100～85点) B (84～70点) C (69～50点) D (49～30点) E (29～0点)	A 優れている B 妥当 C 部分的見直しが必要 D 全面的見直しが必要 E 実施せず		
コメント				

委員名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_)

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 評価結果 (採点の計算方法：係数(a=1、b=0.7、c=0.5、d=0.3、e=0)に項目の比重をかけて採点する。)

評価項目	評価する視点	評価	採点	コメント
必要性 ・ 貢献可能性 (20)	①現場、行政等からのニーズ(必要性) ②県内の農林水産業・食品産業への 貢献可能性 ③研究の継続の必要性	a b c d e		
進捗状況 (50)	①計画どおり進んでいるか (成果が出ているか) (問題がある場合、原因の把握・対応策が適切に 講じられているか)	a b c d e		
今後の計 画の妥当 性 (30)	①実績や情勢の変化等を踏まえた今後の 計画の適切性 ②成果の活用方法や実用化に向けた取組 の適切性 (成果の活用方法を念頭においているか)	a b c d e		
採点結果 (合計)				
総合評価				
総合評価の基準 (目安)	A (100～85点) B ( 84～70点) C ( 69～50点) D ( 49～30点) E ( 29～ 0点)	A 優れている B 妥当 C 部分的見直しが必要 D 全面的見直しが必要 E 中止		
コメント				

委員名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_)

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 評価結果 (採点の計算方法：係数(a=1、b=0.7、c=0.5、d=0.3、e=0)に項目の比重をかけて採点する。)

評価項目	評価する視点	評価	採点	コメント
貢献可能性 (10)	①県内の農林水産業・食品産業への貢献可能性	a b c d e		
計画の達成度 (50)	①当初計画と比較した目標の達成度 ②成果が現場へ普及、あるいは実用化しうるものになったか	a b c d e		
成果の活用方法の妥当性 (40)	①成果の活用方法や実用化に向けた取組の適切化	a b c d e		
採点結果 (合計)				
総合評価				
総合評価の基準 (目安)	A (100～85点) B (84～70点) C (69～50点) D (49～30点) E (29～0点)	A 優れた成果が得られた B 良好な成果が得られた C 予定された成果にはやや至らなかった D それほどの成果が得られなかった E 成果が得られなかった		
コメント				

委員名 \_\_\_\_\_

1 課題名 \_\_\_\_\_ (研究期間 \_\_\_\_\_ )

2 推進プラン上の位置づけ \_\_\_\_\_

3 評価結果

評価項目	評価する視点	評価	採点	コメント
貢献度	①県内の農林水産業・食品産業への貢献度	a b c d e		

様式9 〈評価結果の概要〉

〇〇関係

課題名 (試験研究機関)	試験研究の概要	評価区分	評価結果			対応措置方向	備考
			項目・総合評価		主な意見		
(〇〇研究所)		事前		部会	外部評価委員会	(部会)	
			必要性・貢献可能性			(外部委員会)	
			研究内容の妥当性				
			成果の活用方法の妥当性				
			総合評価				
(〇〇研究所)		中間		部会	外部評価委員会	(部会)	
			必要性・貢献可能性			(外部委員会)	
			進捗状況				
			今後の計画の妥当性				
			総合評価				
(〇〇研究所)		事後		部会	外部評価委員会	(部会)	
			貢献可能性			(外部委員会)	
			計画の達成度				
			成果の活用方法の妥当性				
			総合評価				
(〇〇研究所)		追跡		部会	外部評価委員会	(部会)	
			貢献度			(外部委員会)	